
仮面ライダーTRI's

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーTRI・S

【Nコード】

N4055Q

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

欲望とメダルの怪物・グリードを800年前の戦いで封印した戦士・オーズ…そして現代で再び両者が復活し、新たな戦いを始めた頃、彼らとは別のグリードと戦士が復活を遂げた、オーズ以外のもう一人の戦士『トライズ』として選ばれた『明日が危うい男』が今、文字通り、色々な意味での命を賭けたギリギリの戦いに身を投じる！

（前書き）

本作は『仮面ライダー〇〇〇^{オーズ}』を題材にしたオーズ系オリジナルを主役にした二次創作短編です

尚、〇〇〇本編のキャラは名前くらいしか出ません、そして色々グダグダかもしれませんがご注意ください…（汗）

- 『欲望』…それは生きとし生ける者達全てが持つ、『欲しい』と望む』本能。

- アレが欲しい、コレが欲しい、全てが欲しい。

- 物や金が欲しい、美味しいものが食べたい、女が欲しい…。

- 暴れたい、壊したい、殺したい、犯したい…。

- 欲望の形は純粋なものから歪んだものまで様々…。

- その欲望を形にしたメダル…『オーメダル』の力を糧とする異形の者達が800年の眠りから現代へと目覚めた。

- 『欲望』の名を持つメダルの怪物『グリード』、そしてそれを討ち、封印した三位一体のメダルの力を持つ戦士『オーズ』。

- だが現代に蘇ったグリードと戦士は彼らだけでは無かった…。

- 満月昇る夜…。

「チクシヨ…あのクソ部長があゝ…オレだって偉くなりやゝ…！」

・ 赤ら顔になったスーツ姿の中年の酔っ払いが電柱に寄り掛かった状態で何やら呟いていた…すると。

「ね、おじさん…偉くなりたいの？」

「あん…？」

・ 突然声がしたのでそちらに振り向くとそこには一風変わった風貌をした人物がいた。

・ 幼いのか背は低く、黄金のような美しい金髪のロングヘア、首にはチョーカー…というよりは単なる大きな首輪を付けており、ベルトをあしらった奇抜な黒基調の服を着てるが、眠たそうな眼をした可愛らしい顔つきの少女であった。

「偉くなるって、『欲望』？」

「…ああ？何言ってるんだ…ったりめーだろ…。」

「そうなんだ…それじゃあ…。」

・ 少女は酔っ払いが言う『偉くなること』を『欲望』かと突然質問し、そしてそれが『欲望』と認識すると、少女はその身を『異形の姿』へと変える。

『フウウウウウ…。』

・ 口から鋭い牙が並ぶオオカミに似た顔つきの頭部、女性的な身体つきの胸部と両腕に鋭い爪を持つ上半身、しなやかかつ引き締まっ

た脚部、三位一体の身体を持つ異様な姿……しかも先程までの小柄な身長から一変、大柄になっていた。

「ひ！？ひよええええええええ！」

『その「欲望」：解放しようよ、ね?』

- 怯える酔っ払いにあくまでも優しい口調で近寄りつつ、突然彼の額に現れた何かの『投入口』目掛けて銀色のメダル：セルメダルを放り込む、すると酔っ払いの身体から何かが這い出て来た。

ㄣ
ヴェ
エ
エ
エ
エ
ゝ
!
!
ㄣ

「ぎゃああああああ!？」

・出て来たのはまるでミイラ男のような姿をした怪物…『ヤミー』、グリードが使役する下級怪人にして人間の『欲望』から生まれるグリードと同じメダルの怪人である。

「アウウウ…アウウウウウウ…!!」

「ひっ！？く…来るな、来るな…うげおおええええ！？」

「ヤミーはゾンビの様にノタノタと歩きながら、男の口に無理矢理入り込む…」。

「バイバイ、おじさん。」

「ヴェアアアアアア……！！！」

「おこ…あが…がはああああああ！！」

・グリードはまるで本当の意味での別れを告げるかの様に、ヤミーに無理矢理身体の中に入られてもがき苦しみながら悲鳴を上げる酔っ払いに向けて手の平をヒラヒラと振って、夜の闇に溶け込む様に消え去った…。

・翌日、とあるマンション。

「おい！居るのは解ってたぞ！！出てこいや！！」

・パンチパーマ、頬に傷…ヤクザ風のスーツ姿の大男が大声で怒鳴りながら、ある一室のドアをガンガン叩いて中の人間を出そうとしている。

「す、すみません！！まだ原稿は出来てないんです！！だから明日まで勘弁して下さい！鬼怒川さん！！」

「灯馬アアアアアッ！！ふざけんなクラアッ！！×切りは今日だぞッ！！てめえまた原稿落とす気か！？このトンチキがアアアアアッ！！」

・部屋の中にいる頭にバンダナを巻いた橙色の髪 of 若者・灯馬現は耳を塞ぎ、現実から目を反らすかの様に見苦しい言い訳をしながら、外で怒鳴りまくるヤクザ風の男・鬼怒川辰蔵きぬがわ・たつぞうに謝りまくった。

- 実は現は大人気の漫画雑誌『週間少年サンデー』で連載をしている漫画家であり、鬼怒川は彼の担当編集であるが、現がいつも〆切りに間に合わないため、毎回毎回こんなやり取りを行っており、二人の言い争い（鬼怒川が一方的だが）があまりにうるさいため、目茶目茶近所迷惑になっていた…。

「お前…こんな調子じゃ、マジで連載打ち切りにすんぞ…！」

「ヒイヒイヒイ！？そ…それだけはアアアアアア…！」

- ただでさえ落ち目の漫画家で、アンケート人気が最下位なのに打ち切りなんてことになったら…それこそ現の漫画家人生が終わってしまう。

「このポンコツ漫画家がアアアアアア…！もう許さん！絶対許さん！原稿が無いんならてめえをブツ殺して、てめえの血で原稿描いたらアアアアアア…！」

「うわあああああ！？ひ、人殺しヒイヒイヒイヒイ…！」

- 鬼怒川は原稿が全く出来てない現に対してブチ切れ、殺意全開でドアを乱暴に蹴破って現の部屋へ不法侵入して来たため、現は仕方なく…。

「緊急脱出…！」

「ちょ…おまツ！？ここ3階だぞ！？あ…今、『グチャツ』て、音が…。」

- 現は自分の部屋が3階にあることすら忘れるほど慌てて飛び降り

た…そのため、重力の法則に従って落下し、地面にダイブするハメになり、何かが潰れた様な嫌な音が…。

「だおおおおおおおッ！！」

-…同時に、あまりの痛みに絶叫…端から見たら投身自殺かと思われても仕方ない構図だった、窓からその様子を見ていた鬼怒川は完全に呆れた。

「あ…立った…生きてたのかって…また、逃げた！？待て！畜生がッ！！」

-現はムクリと立ち上がり、外に事前に停めていたと思われるバイクに乗り込み、エンジンをかけて逃走…鬼怒川は慌てて現の部屋から出て、追い掛けるも時既に遅し…。

「…クソだらアアアアアッ！！マジ絶対殺してやらアアアアアッ！！」

-現はとつくにどこぞへと走り去ってしまったため、鬼怒川はその場でマンションの壁を蹴り飛ばして八つ当たりし、怒号を上げた…。

-さて、一方…逃走した現はというと…。

「やれやれ…まさかドアを蹴破るなんて…さて、逃げたはいいけど、どうしよう？マジ原稿出来てないし、今月入って3回も原稿落としたし…確実に鬼怒川さんに殺^けされる…！」

-現は近所の児童公園のブランコを漕いで、頭を抱えながら落ち込んでいた…。

・自分の担当編集である鬼怒川辰蔵という男は他の漫画家達から『鬼辰』と呼ばれ、借金取りばりに原稿の取り立てが厳しく、根も葉も無い噂ではあるが、原稿を落とすと漫画家のド頭を拳銃でプチ抜いて桜の樹の下に埋めるだの、バラバラに解体して動物園のライオンのエサにするだのと囁かれている…次は確実に自分の番だ。

「取り敢えず鬼怒川さんがマンションからいなくなるまで漫画喫茶か何処かで時間を潰して…ん？」

・現が時間潰しのために別な場所に行こうとした時…。

「よおお、姉ちゃんよオ…人にぶつかつといてつれない態度はないんじゃないか？ああ？」

「…フン。」

（…えらい美人がチンピラに絡まれました。）

・傍目から見ても頭パーっぱいチンピラが美人と言っても過言は無い美貌を持つ女性に絡んでいたのを現が目撃…。

（…！！！／／／）

・黄緑を基調としたロングヘア、吊り目がちでキツめな目つきの翡翠色の瞳、そして黒基調のレザージャケット、薔薇を模したアクセサリーをあしらったボンテージ風の胸元が見える大胆な服装、その服装のためにかなり目立つ巨乳、そして黒のブーツを履いた女性…現は気づけば彼女に思わず見惚れていた。

「愚民シャラップ！そのような小さきことでこの私に気安く話かけるでないわ、痴れ者が！」

「まあまあ…そう怒るなよ…取り敢えず、あつちで話^{ナシ}つけようぜ？」

- 女性はチンピラを汚物を見るかのような上から目線+見下し切った口調+『話しかけんな』オーラで振り切ろうとしたがチンピラはしつこく絡み、彼女を路地裏へ連れてってしまった…。

「や…やべえ！！」

- 現は頭の中で女性がチンピラに×××（ピー）な音が軽く入りそうな最悪なことをさせられてしまうのでは…そう感じて思わず二人が入り込んだ路地裏に近寄ろうとしたが…。

「私に噛みつくなど800年早いわ…解ったか！？この卑^{クソ}しい糞^ビ牡^ツ豚^グがッ！！」

「ブヒヒパオーン！！（もっとこの卑しい私めに罰をお与え下さい！女王様ア…ッ！！）」

- …なんと、女性はチンピラの背に自分のブーツのヒールをグリグリと押しついたり鞭で叩いたりしながら罵倒し、チンピラは四つん這いになり顔には豚のマスクを被されており首には首輪をつけられ全裸にされていた状態だ…そんな感じで二人が路地裏から出てきた。

（怖エエエエエ！この短時間で一体そいつに何をしたんだ！？この人はアアアアア！？）

・現は女性がチンピラに襲われるどころか、ほんの数分足らずでチンピラを調教してしまうなどという超展開を予想出来ず、女王様とM奴隷に変わり果てたチンピラの二人を見ながら違う意味でビビリまくった。

（む…なんだ、こやつは…？）

（ヒッ！？目、目が合った…！！）

・そして、たまたま目が合ってしまった現と女性…もとい、女王様…彼女は現をただただ、ジッと見つめ、何かを感じ取る…。

「あ…あの…な…ぶべらッ!？」

「愚民シャラップ！誰が喋っていいなどと言った？立場を弁えろ、下郎!!！」

（えー????何この人？理不尽…。）

・『何か?』と尋ね切る前に、現は女性から超理不尽な理由で平手打ち（ビンタ）を食らってしまい、ぶたれた頬を摩りながら涙目になる。

「さて…次に私の許可無く勝手に喋ったら許さんぞ…解ったか？」

「…。」

「返事ぐらいしろ！」

「はべらッ！？イ…イエッサー！（ヒドイ…！喋らなくても結局ぶつんじやないかッ！？）」

・『喋るな』と言ったから喋らなかったのに、現はまたぶたれた、間違いなくドSだ…この女王陛下。

「さて…貴様、光栄だぞ？なにせこの私に『選ばれた』のだからな？本来ならば貴様如き、愚民など爬虫類の糞にも劣る最下等生物ぐらいしか思っていないのだからな。」

（なにこの超上から目線とサディスティックな価値観？どこまで見下しまくってんの！？）

・『選ばれた』なる意味深かつS的な発言をする女性に対して現は完全に動揺しまくった。

「貴様、名はなんと言つ？喋ることを許す…名乗れ、愚民。」

「と…灯馬現…。」

「ふむ、ゲンか…さて、私も名乗るが礼儀、我が名はディステイナー…。」

・自己紹介（許可有り）を通じてそれぞれ名乗る現と女性…ディステイナー、次の瞬間、彼女はとんでもない発言をした。

「私は貴様の『主君』^{あるじ}になる女だ。」

「…はアアアアア!？」

「だから勝手に喋るな!下郎ツ!！」

「もぐら!？」

・会っていきなり、初対面のはずのディスティーネが『現の主君になる女』などと決めつけるというヘタしたら新手の電波にも聞こえる発言をしたので、現は思わず反応したためにまたまたぶたれた。

「さて、貴様のやることはだな…ム?この気配は…『来たな』?行くぞ、ゲンよ…返事をしろ。」

「イ…イエス・マイロード!!（何が来たの???）」

・何かの気配を感じ取ったディスティーネ、彼女のピンタが怖いので一応返事をしてから着いて行く現…。

「さあ…私とゲンを乗せて行け!奴隷一号!！」

「ブヒヒーン!!（イエス・マイマスター!!）」

（この人に乗るんですかい!?女王陛下!!）

・二人はM奴隷となったチンピラ…否、奴隷一号に跨がり、気配を感じた場所へ向かう…ちなみに周囲の色んな視線が突き刺さったの

は言つまでもない。

・場所は変わり、とある会社。

『ゴフ…グフ…グオオオオオオオン!!』

「ギヤアアアアア!？」

「部長!!なんだ!この怪物は!？」

「キヤアアアアア!？」

・社内に突如乱入して来た人間の顔を張り付けた様な不気味な顔にトゲ付き首輪を巻いてるブルドックに似た外見をした怪物…ブルドックヤミーが部長や課長といった会社のお偉いさんを次々噛み殺したり引き裂いたりしながら惨殺、社員達は全員パニックになって逃げ出す。

『偉くなりたいなら偉い人達を皆殺せば偉くなる…フフ…。』

・ブルドックヤミーが暴れる様子を陰から眺めながら、犬型の動物の身体を持つ、あの時の酔っ払いからヤミーを精製した犬っぽいグリードが無邪気にクスクス笑う。

『あのヤミーがセルメダルに変わるの…楽しみ…。』

・グリードの身体はコアメダルという核を為すメダル（3種×3）とセルメダルという細胞（複数）を為すメダルの二つで構成されており、自分の使役するヤミーをセルメダルに変えて吸収することで自分の力に変えている。

・ちなみにグリードのヤミーの育て方はそれぞれ違う、例えばこの犬グリードの育て方は、人間に寄生させて育てるという点では、そのやり方をするオーズと戦う猫系グリード・カザリに似ているように、実は違う…。

『ワオオオオオン！！』

『ん…他のヤミーが来た、お疲れ様…。』

・ブルドックヤミーとは別に生み出した犬型のイヌヤミーが犬グリードの元にやって来た、そして…。

『ホギヤアアアアアアアア！！』

・その場でなんと『爆発』し、イヌヤミーは断末魔を上げながら消し飛んで、メダルを周囲に撒き散らす…。

『フフ、たくさん出来てる…私のために「死んでくれた」のだからありがたく頂くね。』

・犬グリードは微笑みながら爆発したイヌヤミーが撒き散らしたセルメダルを吸収…。

・この犬グリードのヤミーは人間に寄生したと同時に人間と文字通り『一体化』してしまい、カザリのヤミーと違い引き離すことは一

切不可能、メダルが貯まり切ったが最後…セルメダルを撒き散らしながらヤミーは寄生した人間もろとも爆死してしまうのだ。

「うわあああ！！助け…ぐふ…！？」

「邪魔だ！！さあ、飛ばせ奴隷一号！！」

「ブヒヒパオン！！」

・出口目指して我先に逃げ出す社員達だが、ここで奴隷一号に跨がったディステイーネと現が乱入し、邪魔な連中を殴り飛ばして社内に入る。

「…？」

「グルアアアアア！！」

（ゲ！？な…何、この特撮に出てきそうなバケモン共は！！）

・現は犬グリードとブルドックヤミーを見て血の気が引いた…女王様の次にこんな非現実的なバケモンと会えば無理も無い…。

「ほお？まさか最初に貴様と会おうとはな…エキシィ。」

「…あなた、なんで私の名前を…？」

・現とは対照的にディステイーネは臆することなく、犬型グリード・エキシィを自分の翡翠の瞳で真っ直ぐ見つめる…。

「愚民シャラップ！許可無しに喋るな！牝犬が！！」

『キャイン！？』

（！？）

・デイスティーネはやはり一方的なドS発言をしてエクシィをぶつた…但し、平手打ちではなく、手首から伸びた『イバラの鞭』で…。

（じ…女王様からイバラが…！？）

・現はそれを見てデイスティーネがエクシィと同じ人外の者と悟り、身体が恐怖で硬直する…。

『まさか…あなた…お、お姉様！？』

『誰が喋れと言った！？駄犬が！駄犬がッ！駄犬がアアアアア！』

『キャウン！！…そんな、激し過ぎ…アアン！！もつとぶつてくださ…い！お姉様…！』

（知り合い…？そして既に調教済みでした、あのワン娘！！）

・現の目の前で行われたデイスティーネとエクシィのSMプレイ、もはや何がなんだか…やがてデイスティーネはエクシィに喋る許可を与えた。

『お…お姉様…その人間は、なんですか？』

「決まっておろう？私が『王』になるために『トライズ』として選んだ男だ。」

『「トライズ」…！？』

（…『トライズ』？もう何がなんだか…地元トーク全開でオレだけ置き去り放置プレイかよ…。）

・デイスティーネとエクシイは自分達にしか解らない会話をしてるため現は完全に蚊帳の外だ。

『本気なの…！！かつてカザリ達を封印した忌まわしき存在・オーズの様に、トライズは私達を封印した憎むべき存在！お姉様はそんな奴の力を使って王になるというのッ！？』

・エクシイが驚くのも無理はない…グリードは全てのメダルを集めれば世界を掌握する力を持つ『王』となれる、そのために自分と同じく『グリードである』デイスティーネはかつて自分達を封印した怨敵の力を利用しようなどと考えてるのだから、グリードの自分からして見ればとんでもない暴挙だ。

「当然だ、噂ではあの捻くれ鳥が人間をオーズにして、腹黒猫、虫頭、鈍重小僧、性悪魚女と戦ってメダルを稼いでるらしいから…アंकに出来るなら私に出来ない道理などない！差し当たってまずは貴様のメダルを奪うでしょう！！さて、出番だゲンよ！喋ってよし！」

「イエス・マイロード！そしてオレにも解る様に説明してください！！」

「よかるう。」

・現はようやく発言権を許されたので思い切って質問、デイスティ
ーネは現に簡単にメダルやグリード、そして現に与えた『役目』つ
いて説明。

「つまりあなたは王を目指すグリードで、オレが今からトライズと
いうのに変身して他のグリードやヤミーってのと戦う？マジで？」

「マジだ、さあ…これを装着してメダルをハメ込め。」

「はい…」

・現は諦めた様にデイスティーネに言われるままに、彼女から受け
取ったベルト・トライズドライバーを腰に巻いて装着…そして、三
枚のコアメダル、翡翠色のバラの刻印が入ったメダル、オレンジの
キツネの刻印が入ったメダル、灰色のガゼルの刻印が入ったメダル
をベルトのバックル部分にハメる。

「そしてこれをメダルに当てて読み込んで『変身』と叫べ。」

「…こうツスカ？変身！！」

・続いてデイスティーネに言われた様に現はトライズドライバーに
付着してたアイテム・トライズスキャナーをバックルのメダルに当
て叫ぶと軽快なスキャン音と共に…。

「BARA!KITUNE!GAZELLA!」

♪BA・KI・LLA!♪BAKILLA!♪BA・KI・LLA!」

・テンションが高い奇妙な歌がリズムカルに聴こえたと同時に、現の姿を周囲に飛び交うメダル型のビジョンが包み、大きく変化させた。

・紅い眼が輝く美しいバラの花弁を彷彿とさせる翡翠色の仮面、キツネを思わせるしなやかなオレンジの両腕と鋭い爪、強靱な灰色のガゼルの両脚、そして胸の中心にはバラ・キツネ・ガゼルの紋章が印された円形のサークル・トラングサークル。

・これぞ、灯馬現が変身したメダルの戦士…仮面ライダートライズ
Ⅱバキルコンボである。

『な…なにに？なんなんだ！？バラ？キツネ？ガゼル？？？』

「ウム…怨敵ながらも、なかなか軽快なよい歌だ。」

・トライズに変身した現は訳の解らない歌と変わり果てた自分の姿に翻弄されっ放しでうろたえ、ディステイーネはトライズドライブバーから聴こえた歌を聴いてややご機嫌である。

『トライズ…あ！？よく見たら、私のコアメダル…足りないと思ったら、お姉様ヒドイ！でもそこが素敵…じゃなかった、返させて貰います！！』

『グラアアアアアッ！！』

「来たぞ！！エクシイは私がなんとかするから貴様はやミーと戦え」
「！」

『はい！？ちょ…まつ…！！』

・エクシイは怨敵・トライズを睨むと同時に自分を構成するコアメダルの一つであるキツネメダルを見つけてプリプリ怒りながらブルドックやミーと共にトライズを襲撃、デイスティーネはエクシイを相手に戦いだし、トライズは状況がイマイチ飲み込めなかったために気づけばブルドックやミーに襲われた。

『グオオオオオン！！』

『うぎゃあああ！？いたたた！！噛みつくな！放せっ！』

『ガフツ！？』

・ブルドックやミーが自分の肩に噛みついてきたため、トライズは痛みで暴れるあまり、無意識の内にオレンジ色の鬼火の様な炎・フオックスウィスプを発生させた手・キツネハンドでブルドックやミーを殴りつける。

『野郎、てめえ！！現役漫画家舐めんなよ！？』

『ギヤイン！ギヤインッ！？』

・そして勢いの形勢がようやくトライズに傾き、フォックスウィスプを宿したキツネハンドでブルドックヤミーを目茶苦茶に殴り、痛めつける。

『なんだか、コツが掴めてきた…もう一丁行くぞ！オラアッ！！』

『ゲブブブウッ！？』

・トライズは今度は頭・バラヘッドをブルドックヤミーに向けて、針型の弾丸・ローズスパイクを某ちゃんちゃんこを着た妖怪の少年の様に発射しまくる。

『まだまだアアアアア！！ダララララララララ！！』

『ブガガガガガ！？』

・そしてトライズは脚・ガゼルレッグに力を込めながら地面を蹴り上げてブルドックヤミーの頭上に乗り、連続で頭を踏みつけまくった。

『どうだ…って、ゴハアアアアアッ！？』

『ガアアアアアア！！』

・だが、『調子に乗るな』と言わんばかりの勢いでブルドックヤミーがトライズの鳩尾にタックルをかました…鈍い音が社内中に響く…。

「ゲフ…ガハ…！！つ…強エ…！！なんてバケモンだよ…！！？」

トライズは仮面の中で血ヘドを吐き、胸を押さえながら片膝をつく。

「たわけが！！たかだかヤミー如きに苦戦するでないわ！！」

『そんなこと言われても……そっちは……って、ええええええええええ！』

・ディステイーネはだらしないうライズをやはり上から目線で蔑み罵声を浴びせた、言い訳としてトライズは『自分はどうかんだ?』と言おうとしたが、彼女の方を見て驚愕した…。

「お…お姉様だったら…／／こ…こんなの、恥ずかしいです…／／
／キュウウ／／」

「フン。」

- 結果はディステイーネの圧勝だった。人間の姿になり、全身に鞭で打たれた跡を目立たせたエクシィが亀甲縛りされた状態で逆さ吊りになり、恍惚の笑みを浮かべ、可愛い甘い声を出しながらピクピク痙攣していた。

『アウトオツ！！色んな意味でアウトツ！！自重してください！女王陛下アアアアア！！』

「知るか、さて…そんなに苦労してるならば『コンボ』をやってみろ、翡翠と灰色のメダルをこの二枚のオレンジの奴と変えろ。」

「あ…あ…！やぁん！！／／／お姉様…そこは…イヤアアアン！
！／／／」

『アンタもそのエロボイス、自重して！！』

・色々危ない展開を繰り広げてる二人に激しくツツコミまくるト
ライズにディステイーネはエクシイの胸に手を突っ込んでメダルを
二枚割り出して投げ渡す…尚、エクシイはあまりの激しい責めに、
縛られた身体を虚しく揺らしながら思い切りエロい声で悶えまくっ
た。

『これに変えればいいんだな…どわッ！？』

『ガウウウウウウ！！』

・トライズはブルドックヤミーの攻撃を避けながら、急いでオーズ
ドライバーからバラメダルとガゼルメダルを抜き取り、代わりにオ
レンジ色をしたオオカミの刻印のオオカミメダルとジャッカル
の刻印のジャッカルメダルを挿入してトライズスキヤナーを当てる。

「LOOK KAMII！KITUNE！JACKALL！」

「♪KAMII・KAMII！♪KAMIIKIKALL！！」

・バキルコンボの時とは違う奇妙な歌がリズムミカルに響いた途端、メダル型ビジョンに包まれてバラヘッドとガゼルレッグが別なパーツに変わる…。

・野生のオオカミの如く猛々しいオレンジの仮面に満月の様に輝く金色の眼、疾き獣・ジャツカルの様なオレンジの脚：そしてトラングサークルの紋章もオオカミ・キツネ・ジャツカルのものに変化。

・メダルを入れ替えてその姿を変える『コンボチェンジ』のプロセスが終わったと同時にトライズはバキルコンボから犬系メダルの力を秘めたカミキカルコンボとなった。

『ウウウウウ…ウオオオオオオオオオオオオオオオオ…！』

『ウガアアアアアア！？』

・トライズは月夜に向かって吠える餓狼の如き咆哮を上げつつ、そのまま口から超音波・ウルフシャウトを放ち、ブルドックヤミーを攻撃。

『ガルルルル…グルルルル…ガルアアアアアア！』

『ギャイイイイイン！！』

・もはやそれは戦いなどではない…肉食動物が草食動物を狩るのと同じ、一方的な『蹂躪』であった、トライズはジャツカルレッグのスピードを生かした動きでブルドックヤミーを翻弄しながら、キツ

『先に言ってください!』

- コンボはオーズのタトバコンボ、トライズのバキルコンボの様な通常形態よりも変身者の負担が恐ろしく大きく、よほど耐性が無ければ下手すれば死ぬ危険性すらあるのだ! 後から知らされたのでトライズは今まで以上のデカイ声でツツコミ入れた。

「休む暇など無いぞ、次はアイツをやれ。」

『ハヒッッ!』

「BARA! KITUNE! GAZELLA!」

♪BA・KI・LLA! ♪BAKILLA ♪BA・KI・LLA
!!--」

「SCANNING - CHARGE!!」

「!!--」

- 休憩すら許されずにトライズはディスティネの命令に従ってエクシイを倒すため、カミキカルコンボからバキルコンボに戻り、必殺技を発動。

『ハアアアア! ウリヤアアアアア!』

- トライズが高らかに跳躍し、三つのリング型のビジョンの真ん中を貫く様に拳を突きつけた状態でエクシイに向かってダイブする必殺のパンチ技『バキルスマッシュ』を叩きこもったが…。

『なんの…忍法・縄抜けの術！』

『嘘ん。』

「コラ！！外すな！馬鹿者がアツ！！」

・なんと、エクシイは元のグリード姿に戻り、自らを戒めてた縄からスルリと抜け出してバキルスマツシャーをかわしたため、トライズはデイスティーネに怒られるハメになった。

『それではお姉様、そしてトライズ…次に会った時は絶対に私のメダルを奪い返してみせますから…。』

「あ！？待て！駄犬がアツ！！チツ…逃げられたか…まあ、いい…セルメダルがかなり稼げたからな。」

・エクシイがオレンジ色の木の葉を撒き散らして捨て台詞を残して撤退、デイスティーネは舌打ちしながらセルメダルを吸収した時…。

『ウグ…うう…ん…ガクツ。』

「フン…やはりコンボの反動が来たか…。」

・トライズは変身が解けて現の姿に戻り、カミキカルコンボの反動のせいで気絶し、床に伏してしまう。

「だがよくぞやった、これからは奴隷^{トライズ}二号として、私のためにメダルを死ぬまでたっぷり稼いでもらうからな、光栄に思え、ゲンよ！ハッハッハッハッハ！！」

（…き、鬼怒川さんにボコられてた方がまだマシだったよ…）

・デイスティーンは高笑いしながら労いの言葉を現にかけるが、肝心の本人は疲労と筋肉痛で全然聞こえちゃいない…。

（…けど…漫画のネタに…なるかも、な…。）

・最後に静かに笑みを浮かべて、そのまま現は眠りについた…。

・偶然出会ったグリードの女・デイスティーンが『王』になるために強制的に働かされる下僕^{トライス}と化した落ち目の漫画家・灯馬現、彼の明日はどっちだ…？

・一方、現のマンションでは…。

「…。」

・現の部屋に居座りながら、拳銃^{ハンキ}を丁寧に手入れする鬼怒川の姿があったという…どうやら現の明日はもう無いようだ。

（後書き）

今回の短編に出たグリードの名前の由来は

デイスティーネ（植物系）↓『サディスティック』

エクシイ（犬系）↓『エクスタシー』

からです、なんつーもんから取ってんだよ、作者…

ちなみに強さの比率は

デイスティーネ>>>>>>>>>>エクシイ>トライズ>>>鬼
怒川>>>越えられない壁>>>>>>>>現>>>>奴隷一号

です、現は生身では奴隷一号にしか勝てません（汗）

それでは、皆様…またどこかでお会いしましょう、柳雨でした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4055q/>

仮面ライダーTRI's

2011年1月28日06時43分発行